

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第 1 項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年 6 月24日

【事業年度】 第171期(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

【会社名】 尾張精機株式会社

【英訳名】 OWARI PRECISE PRODUCTS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 深 水 康 一

【本店の所在の場所】 名古屋市東区矢田三丁目16番85号

【電話番号】 (052)721 - 7131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 児 玉 啓 二

【最寄りの連絡場所】 愛知県尾張旭市下井町はねうち2345番地の 1

【電話番号】 (0561)53 - 4121(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 児 玉 啓 二

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所

(名古屋市中区栄三丁目 8 番20号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第167期	第168期	第169期	第170期	第171期
決算年月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高 (千円)	13,101,577	14,742,327	14,132,032	14,712,952	15,372,675
経常利益 (千円)	451,370	783,009	688,589	975,967	1,091,499
当期純利益 (千円)	388,532	257,178	329,175	568,919	852,876
包括利益 (千円)	—	134,579	264,000	718,831	1,035,821
純資産額 (千円)	8,428,735	8,493,750	8,687,372	9,336,042	10,350,914
総資産額 (千円)	14,423,947	14,161,013	15,662,406	15,824,273	15,932,924
1 株当たり純資産額 (円)	738.14	745.37	761.24	817.16	888.70
1 株当たり当期純利益 (円)	34.07	22.56	28.90	49.97	74.06
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	58.3	60.0	55.4	58.8	64.6
自己資本利益率 (%)	4.8	3.0	3.8	6.3	8.7
株価収益率 (倍)	5.3	9.4	8.3	4.9	4.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,800,552	1,638,110	570,779	1,262,420	1,006,356
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	319,146	116,418	4,156,106	2,428,443	847,952
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	605,761	824,676	1,193,757	935,179	867,707
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	3,140,022	3,747,575	1,288,770	4,228,832	3,691,365
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	462 (96)	486 (107)	497 (107)	527 (122)	523 (118)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第167期	第168期	第169期	第170期	第171期
決算年月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高 (千円)	12,309,361	13,263,023	12,742,708	12,617,675	12,399,989
経常利益 (千円)	388,379	464,650	440,971	693,399	582,952
当期純利益 (千円)	94,781	135,534	162,029	352,222	429,493
資本金 (千円)	1,093,978	1,093,978	1,093,978	1,093,978	1,093,978
発行済株式総数 (株)	11,659,500	11,659,500	11,659,500	11,659,500	11,659,500
純資産額 (千円)	7,318,056	7,304,494	7,412,013	7,771,107	8,233,877
総資産額 (千円)	13,188,280	12,769,135	14,289,664	13,883,607	13,490,014
1 株当たり純資産額 (円)	641.89	641.04	650.76	682.79	711.48
1 株当たり配当額 (うち 1 株当たり 中間配当額) (円)	4.50 (1.50)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)
1 株当たり当期純利益 (円)	8.31	11.89	14.22	30.94	37.30
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	55.5	57.2	51.9	56.0	61.0
自己資本利益率 (%)	1.3	1.9	2.2	4.6	5.4
株価収益率 (倍)	21.8	17.8	16.9	8.0	8.1
配当性向 (%)	54.2	50.5	42.2	19.4	16.1
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	316 (77)	309 (84)	306 (84)	295 (95)	288 (94)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

明治39年 5 月	中国及び東南アジアの輸出柱時計及び目覚時計の製造・販売を目的として、資本金10万円をもって尾張時計株式会社を設立。
大正 7 年 7 月	帝国機械製造株式会社を合併。
昭和14年12月	名古屋市東区矢田町に工場を新設し、陸軍航空本部監督工場に指定され専ら航空機部品の製造に従事し本店を矢田町に移転。
昭和18年 8 月	商号を尾張時計航空機工業株式会社と変更し、名古屋市東区飯田町に工場を新設。
昭和19年 1 月	津島市藤浪町に工場を新設し同年 4 月軍需大臣により軍需会社に指定。
昭和19年 6 月	本店を名古屋市東区葵町に変更し、同年 8 月瀬戸市に工場を新設。
昭和20年 8 月	軍需会社の指定を解除され、同年10月商号を尾張時計株式会社と復元変更し、掛時計、目覚時計、及び一般ねじ類の製造に従事し平和産業へ転換。
昭和24年 5 月	本店を現在地に復帰し、本社工場を除く他工場を整理。
昭和36年10月	名古屋証券取引所（市場第二部）に上場。
昭和37年 1 月	株式会社守山製作所（現・連結子会社）を設立。
昭和37年 5 月	商号を尾張精機株式会社と変更し、掛時計、目覚時計の製造を中止し、自動車ミッション部品、一般ねじ類、航空機の部品製造に重点をおく。
昭和41年 7 月	本社工場に新熱間鍛造工場を建設。
昭和42年 5 月	尾張旭市に新工場用地を取得。
昭和43年 5 月	尾張旭市に機械加工工場を新設。
昭和44年 1 月	一般ねじ類の販売を目的とし東京事務所を開設。
昭和45年 6 月	尾張旭市に熱間鍛造工場を新設。
昭和48年 1 月	東京事務所を東京営業所と改称。
昭和56年 3 月	本社工場に熱処理工場を建設。
昭和57年 2 月	自動車ミッションの部品であるシフトフォークの製造を開始。
昭和60年 1 月	本社の工具工場を旭工場に移転。
昭和62年11月	広島営業所を開設。
平成元年11月	旭工場に物流センターを新設。
平成 4 年 3 月	旭工場にプラズマ溶射工場を新設。
平成 5 年 1 月	岐阜県美濃市美濃テクノパークに新工場用地を取得。
平成 6 年 5 月	株式会社江南螺子製作所（現・連結子会社）の株式買収。
平成 7 年 4 月	岐阜県美濃市美濃テクノパークに冷間鍛造工場を新設。
平成11年 4 月	本社・美濃工場で、品質保証の国際規格ISO9002の認証を取得。
平成11年12月	旭工場で、品質保証の国際規格ISO9002の認証を取得。
平成12年 3 月	旭工場にミドルリング工場を新設。
平成13年 8 月	本社工場に物流センターを新設。
平成14年 4 月	アメリカ合衆国インディアナ州に、OSR, INC.（現・連結子会社）を設立。
平成14年10月	本社・旭工場・美濃工場で、環境の国際規格ISO14001の認証を取得。
平成14年12月	インドバンガロールに、OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD.（現・連結子会社）を設立。
平成16年 8 月	中華人民共和国浙江省嘉興市に合併会社合克薩斯（へくさす）精工（嘉興）有限公司を設立。（当社出資比率10%）
平成17年 1 月	本社工場の冷間鍛造工場を改築。
平成18年 5 月	創業100周年記念として、本社工場に「先人の碑」を建立。
平成18年11月	本社・旭工場・美濃工場・広島営業所でISO9001に加え、品質保証の自動車部品に対する国際規格TS16949の認証を取得。
平成19年 3 月	タイ国ラヨーン県に、OYT CO., LTD.（現・連結子会社）を設立。
平成20年 3 月	東京営業所を閉鎖し、営業部に統合。
平成21年 9 月	株式会社旭鉄工所（現・株式会社守山製作所）の増資を引き受け、子会社化。
平成21年12月	航空宇宙産業における国際規格JISQ9100の認証を取得。
平成24年10月	株式会社守山製作所を存続会社とし、株式会社旭鉄工所を吸収合併。
平成25年 1 月	美濃工場を増築し、建屋二階に株式会社美濃コーティング（現・連結子会社）を設立。

3 【事業の内容】

当社グループは、尾張精機(株)(当社)および子会社6社(株守山製作所・(株)江南螺子製作所・(株)美濃コーティング・OSR, INC.・OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD.・OYT CO., LTD.)で構成され、事業は精密鍛造品、ねじ類(主要ユーザーは自動車関連企業)および航空機部品の生産・販売を営んでおります。

当社および子会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の4部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) 日本・・・尾張精機(株)(当社)・(株)守山製作所・(株)江南螺子製作所および(株)美濃コーティングの4社であります。

(株)守山製作所が営んでいる主な事業内容は、当社が受注した自動車用部品である溶接用ナット・座付セルフロックナット、ねじ製品の製造・販売及び建築用金具・ナット類、電機産業を中心としたねじ製品の製造・販売であります。製造する製品と加工方法では類似した点がありますが、製品そのものは(株)守山製作所と当社との間に競合するものではなく、補完の関係にあります。

(株)江南螺子製作所の営んでいる主な事業内容は、十字穴小ねじ・タッピングねじのヘッダー・ローリング加工であり、当社が販売する同製品の約50%を占めております。

(株)美濃コーティングは現在事業活動開始に向けて準備中であり、今後の主な事業内容は、当社が受注した自動車部品の表面処理加工であります。

国内子会社の内、(株)守山製作所および(株)江南螺子製作所の売上高の大半は当社からの受注であり、この2社が独自に製造・販売している製品の割合は比較的低いものであります。

(2) アメリカ・・・OSR, INC. 1社であります。

OSR, INC.の営む主な事業内容は、小ねじの製造・販売であります。北米にあるトヨタ自動車(株)様を始めとする各自動車メーカーへのねじの供給を目的としており、当社からOSR, INC.へ製品の販売を行っております。

(3) インド・・・OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD. 1社であります。

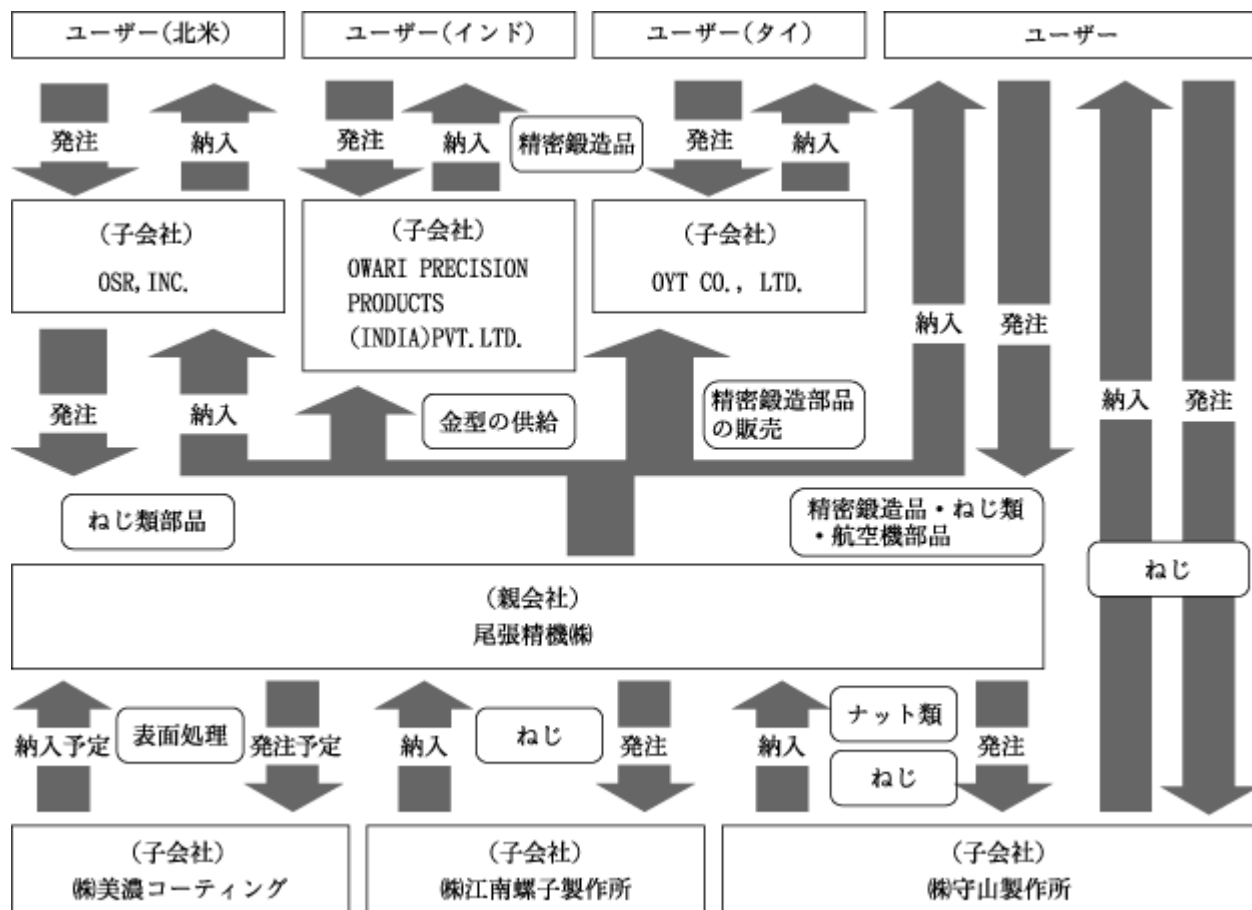
OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD.の営む主な事業内容は、シンクロナイザーリングおよびシャフトの製造・販売であります。アジアにあるトヨタ自動車(株)様を始めとする各自動車メーカーへのシンクロナイザーリングおよびシャフトの供給を目的としており、当社からは金型の供給を行っております。

(4) タイ・・・OYT CO., LTD. 1社であります。

OYT CO., LTD.の営む主な事業内容は、シフトフォークおよびシンクロナイザーリングの製造・販売であります。アジアにあるアイシン・エーアイ(株)様、トヨタ自動車(株)様を始めとする各自動車メーカーへのシフトフォークおよびシンクロナイザーリングの供給を目的としており、当社からOYT CO., LTD.へ製品の販売を行っております。

このように、国内子会社3社の製品が当社が販売する製品の一翼を担い、また、海外子会社3社も含めて、当社の役員を始め販売・技術・生産・品質管理者が支援をしており、経営から生産・販売面で緊密な協力体制にあります。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社守山製作所	名古屋市守山区	24百万円	ねじおよびナット類の製造販売	100.00	当社は、商品の購入、部品の加工依頼および土地の賃貸を行っております。 役員の兼任 当社役員 2名 当社従業員等 2名
株式会社江南螺子製作所	愛知県江南市	10百万円	ねじの製造販売	100.00	当社は、部品の購入を行っております。 役員の兼任 当社役員 2名 当社従業員等 1名
株式会社美濃コーティング	岐阜県美濃市	10百万円	ねじの表面処理加工	100.00	当社は、部品の表面処理加工依頼を行う予定であります。 役員の兼任 当社役員 3名 当社従業員等 2名
OSR, INC. (注) 2	アメリカ合衆国インディアナ州	4.5百万米ドル	ねじの製造販売	93.33	当社は、製品の販売と資金援助を行っております。 役員の兼任 当社役員 3名 当社従業員等 1名
OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD. (注) 2	インドバンガロール	140百万ルピー	シンクロナイザーリングおよびシャフトの製造販売	100.00 (0.01)	当社は、金型の供給と資金援助を行っております。 役員の兼任 当社役員 1名 当社従業員等 3名
OYT CO., LTD. (注) 2, 4	タイ国ラヨン県	100百万バーツ	シフトフォークおよびシンクロナイザーリングの製造販売	89.99	当社は、製品の販売と資金援助を行っております。 役員の兼任 当社役員 2名 当社従業員等 3名

(注) 1 有価証券報告書又は有価証券届出書を提出している会社はありません。

2 特定子会社に該当しております。

3 「議決権の所有割合」欄の(内書)は、間接所有割合であります。

4 OYT CO., LTD.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	1,866百万円
	経常利益	276百万円
	当期純利益	276百万円
	純資産額	590百万円
	総資産額	1,188百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年 3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
日本	351 （103）
アメリカ	24 （1）
インド	61 （14）
タイ	87 （―）
合計	523 （118）

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（パートタイマー等）の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成26年 3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
288 （94）	43.2	16.2	5,501,180

セグメントの名称	従業員数（人）
日本	288 （94）
合計	288 （94）

- (注) 1 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。）であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（パートタイマー等）の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、日本労働組合総連合会 J A M に加盟しており、平成26年 3月31日現在の組合員数は241名であります。

労使関係は相互信頼を基盤として円満な関係を持っており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、日銀の金融緩和政策に相応の効果が現れ、消費税増税前の駆け込み需要などもあり緩やかな上昇方向を維持しました。

また、世界経済は、米国は回復基調であり、欧州は緩やかな持ち直し傾向が続いておりますが、中国は減速感が強まってきております。

このような経済情勢のなかで、当社グループの主要なお客様であります自動車業界の国内生産台数は、前年同期に比べ増加しました。

こうした状況のもと当社グループは、高品質な製品づくりと販売・競争力の強化に努め、売上高は、15,372百万円となり前年同期に比べ659百万円(4.5%)の増収となりました。この売上高の増加により、営業利益は841百万円と前年同期に比べ166百万円(24.6%)、経常利益は1,091百万円と前年同期に比べ115百万円(11.8%)、当期純利益は、852百万円となり前年同期に比べ283百万円(49.9%)の増益となりました。

セグメント別の売上高につきましては次のとおりであります。

日本は売上高12,120百万円と前年同期比145百万円(1.2%)の減収、アメリカは948百万円と前年同期比262百万円(38.4%)の増収、インドは437百万円と前年同期比206百万円(89.5%)の増収、タイは1,866百万円と前年同期比335百万円(21.9%)の増収となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、3,691百万円と前年同期と比べ537百万円減少いたしました。

営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ256百万円減少し、1,006百万円となりました。主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,110百万円、減価償却費614百万円、為替差益230百万円および法人税等の支払額306百万円によるものであります。

投資活動の結果使用した資金は、847百万円となりました(前年同期は2,428百万円獲得)。主な内訳は、定期預金の預入による支出1,246百万円、定期預金の払戻による収入1,439百万円、有形固定資産の取得による支出1,059百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ67百万円減少し、867百万円となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出838百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前期比(%)
日本	12,653,942	0.7
アメリカ	665,074	124.2
インド	461,630	95.1
タイ	1,676,906	28.8
合計	15,457,552	6.0

- (注) 1 金額は受注価格で表示しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
日本	12,176,843	0.6	1,866,446	4.3
アメリカ	990,198	39.0	74,346	11.0
インド	461,630	95.1	38,086	19.7
タイ	1,879,002	24.6	165,140	20.3
合計	15,507,673	5.5	2,144,018	5.9

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前期比(%)
日本	12,120,144	1.2
アメリカ	948,298	38.4
インド	437,508	89.5
タイ	1,866,723	21.9
合計	15,372,675	4.5

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
アイシン・エーアイ株式会社	3,035,843	20.6	2,533,920	16.5
トヨタ自動車株式会社	2,279,226	15.5	2,186,930	14.2
マツダ株式会社	1,664,139	11.3	1,924,582	12.5

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、懸念材料として、国内情勢では消費税増税の駆け込み需要の反動など、国際情勢ではウクライナ情勢を巡る米欧とロシアの対立が予断を許さないことから、原油・天然ガスの価格高騰への波及などがあげられます。

このように先の見通しにくい国内外の状況のなかではありますが、当社は「お客様あつての企業に徹します」「明るく働きがいのある職場を作ります」「環境の変化に対応します」の経営方針のもと、安全を基本に品質と生産性の向上に努め、ステークホルダーの皆様に喜んでいただける企業体質を作りあげてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 当社グループの売上高のうち90%超を自動車等の輸送用機器部品が占めており、自動車の生産台数の推移が当社グループの業績に多大な影響を及ぼす可能性があります。

(2) 当社グループの国内工場はすべて中部地区に存在しており、取引先の多くも東海地震の発生が予想される中部地区に存在しており、東海地震を含め大規模な地震または操業に影響するような事象が発生した場合、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) 当社グループは、安全を基本とし品質を第一とする「お客様あつての企業」に徹するために活動を進めております。お客様のニーズ、環境の変化に対応し、常にお客様に満足していただける製品、サービスの提供を目指しておりますが、全ての製品に関して欠陥がなく、リコール等が発生する可能性がないとはいえません。大規模なリコール等や製造物責任賠償につながるような製品の欠陥が発生した場合、多額のコストが発生し、当社グループの業績と財務状況に多大な影響を及ぼす可能性があります。また、製造物責任賠償保険に加入しておりますが、この保険によりカバーできないリスクが存在します。

(4) 当社グループは、従来より原則として取引関係のある取引先の要請により市場性のある株式を保有（当期末保有高886百万円）してまいりましたが、将来大幅な株価下落が続く場合には保有有価証券に評価損が発生し、当社の業績に悪影響を及ぼすとともに、自己資本比率の低下を招く恐れがあります。

(5) 当社グループは、製品の製造に関する原材料・部品を複数の供給元から調達しております。

これらの供給元とは取引基本契約を締結し、安定的な取引を行っておりますが、市況の変化による価格の高騰や品不足が生じないという保証はありません。この場合、当社グループの製造原価の上昇を招き、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 自動車業界における価格競争は大変厳しいものとなっており、このような価格競争に対応すべく、生産性向上などの合理化活動などによりコスト削減を図っておりますが、全世界の競合他社との価格競争に打ち勝てない場合、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 当社グループの海外各国における売上、費用、資産を含む現地通貨建ての項目は、連結財務諸表の作成時に円換算されており、現地通貨における価値に変動がない場合も、円換算後の価値が影響を受ける可能性があります。特に、米ドルなどに対する急激な円高が進行することにより、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響が及ぶ可能性があります。

(8) 当社グループは北米、アジアに子会社を有していますが、海外市場への事業進出には以下のようなリスクが内在しており、これらの事象が発生した場合には当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響が及ぶ可能性があります。

予期しえない法律・規制、不利な影響を及ぼす租税制度の変更

労働争議の発生による工場操業の難しさ

テロ、戦争、その他の要因による社会的混乱

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 当社が技術援助を受けている契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
ACUMENT GLOBAL TECHNOLOGIES, INC. (注)	オランダ	トルクス	1 商標権の使用権の設定 2 製造権又は販売権の許諾 3 技術情報の提供	平成26年4月23日から 平成29年4月22日まで
		トルクスプラス		平成24年1月1日から 平成27年12月31日まで
		ストラックス		平成25年6月20日から 平成28年6月19日まで
EJOT GMBH&CO.KG、 INDUSTRIAL FASTENER DIVISION (注)	ドイツ	PT スクリュー デルタPTスクリュー	1 商標権の使用権の設定 2 製造権又は販売権の許諾 3 技術情報の提供	平成16年6月21日から 平成30年7月27日まで
ITWオートモーティブC&F ジャパン(株) (注)	日本	サインユーロック	1 商標権の使用権の設定 2 製造権又は販売権の許諾 3 技術情報の提供	平成26年6月15日から 平成27年6月14日まで
MAThread, Inc. (注)	米国	MATheard MATpoint	1 商標権の使用権の設定 2 製造権又は販売権の許諾 3 技術情報の提供	平成21年10月30日から 平成36年10月29日まで
マグニジャパン(株)	日本	金属金物用高耐食性 コーティング剤	1 商標権の使用権の設定 2 製造権又は販売権の許諾 3 技術情報の提供	平成24年12月1日から 平成27年11月30日まで

(注) ロイヤリティーとして売上高の一定率を支払っております。

(2) 当社が技術援助等を与えている契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
合克薩斯精工(嘉興)有限公司	中国	ボルト	製造・使用及び販売に関連する技術援助	平成23年9月1日から 平成26年8月31日まで

(注) 上記については、ロイヤリティーの対象となる売上高の一定率を受取っております。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、お客様の要望に答えていくことを開発の基本とし、「良いものを、安く、早くつくる」により、以下のとおり新製品の開発、新技術・工法の革新を行っております。なお、当連結会計年度中に発生した研究開発費は3,522千円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

日本

お客様の満足度向上を第一に考え、ニーズの高い軽量で環境に対応した低コストの製品開発に努めております。

ねじ類につきましては、樹脂用タッピンねじ、斜め噛み込み防止ねじなどの開発に取り組んでおります。

精密鍛造品につきましては、海外移管が進み国内の空洞化を独自の開発、サービスの提供でカバーし国内需要を確保できるよう鉄製シンクロナイザーリング、カーボンリングおよび安価材の開発に取り組んでおります。

当連結会計年度における研究開発費の金額は3,522千円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は、原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて過去の実績や現状等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5（経理の状況）の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

退職給付債務

当社グループの従業員の退職給付に備えるための退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される割引率、将来の報酬水準、退職率等の前提条件や長期期待運用収益率に基づいて算出しております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合には、当社グループの業績および財務状況に影響を与える可能性があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、将来の合理的な見積可能期間内の課税所得の見積額を限度として、当該期間内の一時差異等のスケジューリングを行い計上しております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

(2) 経営成績の分析

売上高

当連結会計年度における当社グループの経営成績は、新車の国内販売台数が軽自動車・乗用車ともに増加したことや、欧米向けを中心に輸出が好調に増加したことにより前年同期比4.5%増加となりました。中でも、ねじ類は前年同期比9.1%増となりました。

営業利益・経常利益・当期純利益

当社グループは、お客様からの信頼を高めるべく新規お客様の開拓と高品質の製品づくりに努め、営業利益は前年同期に比べ166百万円増益の841百万円、経常利益は115百万円増益の1,091百万円、当期純利益は283百万円増益の852百万円となりました。これは、主に円安の影響を受け、為替差益を計上したことによるものであります。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

当社グループの資金状況は、営業活動により獲得した資金は、前年同期に比べ256百万円減少し、1,006百万円となりました。主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,110百万円、減価償却費614百万円、為替差益230百万円および法人税等の支払額306百万円によるものであります。

投資活動の結果使用した資金は、847百万円となりました。主な内訳は、定期預金の預入による支出1,246百万円、定期預金の払戻による収入1,439百万円、有形固定資産の取得による支出1,059百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は、867百万円となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出838百万円によるものであります。

これらの活動の結果、当連結会計年度末日における現金及び現金同等物は前年同期に比べ537百万円減少し、3,691百万円となりました。

(4) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、安全を基本とし品質を第一とする「お客様あつての企業」に徹するために活動を進めます。

お客様のニーズ、環境の変化に対応し、常にお客様に満足していただける製品、サービスの提供を目指します。

また、引き続き経費削減とムダの徹底排除に取り組み、経営体質改善を行い、利益が確実に出せる企業体質を作り上げてまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において生産ライン見直し、生産性の向上、設備の維持更新を図るため1,220,266千円の設備投資を実施しました。その主な内訳として機械装置656,849千円であります。

なお、生産能力に影響を及ぼす固定資産の売却・撤去等はありません。

セグメントごとの主な設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 日本

機械装置については、製造品目拡大を目的に多段式パーツフォーマー177,000千円、熱処理装置の老朽化による更新および生産拠点の複数化によるリスク低減を目的に274,000千円の投資を実施しました。

(2) タイ

新規受注品の生産に備えることを目的に、機械装置128,578千円の投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社及び 本社工場 (名古屋市東区)	日本	ねじ製造設備 その他輸送用機器 製造設備	498,450	372,990	32,849 (16,392)	53,157	19,816	977,263	98 (31)
旭工場 (愛知県尾張 旭市)	日本	精密鍛造品 製造設備	446,500	372,366	152,994 (51,832)	—	11,219	983,080	161 (61)
美濃工場 (岐阜県美濃市)	日本	ねじ製造設備	587,594	313,704	336,562 (12,370)	—	7,326	1,245,187	26 (2)

(2) 国内子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
株式会社 守山製作所	本社 (名古屋市 守山区)	日本	ねじ製造 設備	9,759	114,124	93,191 (5,198)	3,763	1,282	222,121	41 (6)
株式会社 江南螺子 製作所	本社 (愛知県 江南市)	日本	ねじ製造 設備	8,983	47,071	34,382 (2,125)	—	46	90,483	22 (3)

(3) 在外子会社

平成25年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
OSR, INC.	本社 (アメリカ 合衆国イン ディアンナ 州)	アメリカ	ねじ製造 設備	14,094	146,102	— (—)	—	3,675	163,873	24 (1)
OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT.LTD.	本社 (インドバ ンガロール)	インド	精密鍛造品 製造設備	—	256,938	— (—)	—	5,481	262,420	60 (14)
OYT CO.,LTD	本社 (タイ国ラ ヨン県)	タイ	精密鍛造品 製造設備	24,609	203,677	38,440 (18,304)	—	37,937	304,664	88 (—)

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含んでおりません。
2 株式会社守山製作所の土地の一部は、提出会社から賃借しているものであります。
3 OSR, INC.の土地及び工場建物の一部は、RIGHTWAY FASTENERS, INC.から賃借しているものであります。
4 OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD.の土地及び建物は、すべてTOYOTA TECHNO PARK INDIA PRIVATE LIMITEDから賃借しているものであります。
5 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員(パートタイマー等)の年間平均雇用人員であります。
6 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設

日本

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額 (千円)		資金 調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の増加能 力
			総額	既支払額				
提出会社	本社 (岐阜県各務原市)	土地	227,000	227,000	自己資金	—	平成26年5月	—
提出会社	美濃工場 (岐阜県美濃市)	表面処理 設備	169,650	104,650	自己資金	平成26年1月	平成26年7月	処理能力 70トン/月

アメリカ

当連結会計年度末現在において、重要な設備の新設、改修計画はありません。

インド

当連結会計年度末現在において、重要な設備の新設、改修計画はありません。

タイ

当連結会計年度末現在において、重要な設備の新設、改修計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	28,052,000
計	28,052,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,659,500	11,659,500	名古屋証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	11,659,500	11,659,500	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年7月30日(注)	350	11,659	—	1,093,978	—	757,360

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1 単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	7	7	21	5	1	801	842	—
所有株式数 (単元)	—	2,183	23	4,665	241	1	4,370	11,483	176,500
所有株式数 の割合(%)	—	19.01	0.20	40.62	2.10	0.01	38.06	100.00	—

(注) 自己株式のうち86単元は「個人その他」の欄に、557株は「単元未満株式の状況」欄に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
M M Cスーパーアロイ株式会社	埼玉県桶川市上日出谷1230番地	1,436	12.32
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	1,164	9.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	549	4.71
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	526	4.51
アイシン・エーアイ株式会社	愛知県西尾市小島町城山1番地	495	4.25
エムエスティ保険サービス株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目6番1号 新宿エルタワー	350	3.00
三菱UFJリース株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	346	2.97
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	315	2.70
株式会社中京銀行	名古屋市中区栄三丁目33番13号	295	2.54
イトウ金属株式会社	愛知県日進市岩藤町七ツ塚23番地	275	2.36
計	—	5,754	49.35

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 86,000	—	1単元(1,000株)
完全議決権株式(その他)	普通株式11,397,000	11,397	—
単元未満株式	普通株式 176,500	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	11,659,500	—	—
総株主の議決権	—	11,397	—

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式557株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 尾張精機株式会社	名古屋市東区矢田三丁目 16番85号	86,000	—	86,000	0.74
計	—	86,000	—	86,000	0.74

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	8,700	2,316,358
当期間における取得自己株式	545	169,495

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	200,000	51,400	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	230	55	—	—
保有自己株式数	86,557	—	87,102	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する配当額の決定は最重要政策として位置づけており、自動車業界における受注競争・技術革新に対応した設備投資を行い、新製品・新技術の開発、生産の合理化、品質の向上を図り、企業体質を一層強化して、安定的な配当の継続を基本に、業績に応じて成果の配分を行うことを基本方針としております。

当社は会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当社は中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき期末配当金を1株につき3.0円とし、中間配当金3.0円と合わせて年間配当金は6.0円とすることに決定しました。

当期の内部留保資金につきましては、品質向上・原価低減等の設備投資に充てるとともに、健全で安定した企業体質の強化のために活用し、事業の合理化に努めてまいり所存であります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年10月25日 取締役会決議	34,727	3.0
平成26年5月30日 取締役会決議	34,718	3.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第167期	第168期	第169期	第170期	第171期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	195	288	247	260	362
最低(円)	145	149	185	171	234

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所(市場第二部)によるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	268	285	280	362	322	327
最低(円)	255	265	250	258	297	302

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所(市場第二部)によるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役会長	航機部担当	木 村 進 一	昭和23年 3 月21日生	平成 9 年 6 月 平成12年 6 月 平成14年 6 月 平成18年 6 月 平成21年 6 月 平成25年 6 月	当社技術部長 当社取締役 当社常務取締役 当社代表取締役社長 当社取締役会長 当社取締役会長 航機部担当 (現在)	平成26年6月 から 平成27年6月 まで	78
取締役社長 代表取締役		深 水 康 一	昭和24年12月16日生	平成13年 4 月 平成14年 3 月 平成14年 6 月 平成21年 6 月	(株)東海銀行 豊橋地区母店長兼豊橋支店長 当社総務本部長 当社常務取締役 当社代表取締役社長 (現在)		50
取締役副社長 代表取締役		兵 藤 光 司	昭和32年 6 月 6 日生	平成18年 1 月 平成20年 7 月 平成21年 1 月 平成25年 1 月 平成25年 6 月 平成26年 6 月	トヨタ自動車(株) 豪亜中近東事業部 プロジェクト室長 パキスタン INDU S MOTOR COM PANY LIMITED 赴任 同社副会長 当社顧問 当社常務取締役 営業本部長 当社代表取締役副社長 (現在)		1
取 締 役	総務部長	児 玉 啓 二	昭和31年 9 月10日生	平成22年 4 月 平成23年 6 月	当社総務部長 当社取締役 総務部長 (現在)		13
取 締 役	本社工場長 兼技術部長 (本社)および本社工場・美濃工場の生産・技術・品質担当	亀 井 勇	昭和27年12月21日生	平成18年 4 月 平成21年 4 月 平成22年 4 月 平成24年 6 月 平成26年 6 月	当社本社副工場長 当社本社工場長 (株)江南螺子製作所 代表取締役社長 当社取締役 当社取締役 本社工場長兼品質管理部長 (本社) 兼品質管理責任者兼試験所長および本社工場・美濃工場の生産・技術・品質担当 (現在)		14
取 締 役	営業部長および新規プロジェクト推進室担当	小 林 茂	昭和34年 3 月11日生	平成16年 6 月 平成18年 4 月 平成20年 6 月 平成23年 3 月 平成23年 6 月 平成24年 6 月	(株)ＵＦＪ銀行 高畑支店長兼高畑法人営業部長 (株)三菱東京ＵＦＪ銀行 春日井支社長 同行 半田支社長 当社顧問 当社常勤監査役 当社取締役 営業部長 (現在)		8
取 締 役	旭工場長および旭工場の生産・技術・品質担当、工具担当および開発プロジェクトリーダー (旭)	平 松 繁 孝	昭和33年 9 月26日生	平成26年 4 月 平成26年 6 月	当社本社副工場長兼美濃工場長 (部長待遇) 兼技術部長 (本社) 当社取締役 旭工場長兼品質管理部長 (旭) および旭工場の生産・技術・品質、工具、新規プロジェクト推進室担当および開発プロジェクトリーダー (旭) (現在)		—
常勤監査役		尾 寄 政 行	昭和31年 2 月23日生	昭和49年 6 月 平成22年 1 月 平成22年 6 月 平成23年 6 月 平成24年 6 月	三菱金属(株)入社 同社 高機能製品事業部営業部 部長補佐 当社営業部部長 当社営業部長 当社常勤監査役 (現在)	平成24年 6 月から 平成28年 6 月まで	3
監 査 役		須 田 佳 孝	昭和35年 1 月25日生	昭和58年 4 月 平成19年10月 平成22年 1 月 平成22年 6 月 平成22年 7 月 平成25年 3 月 平成25年 4 月 平成26年 4 月	三菱金属(株)入社 同社 桶川製作所 製造部長 同社 桶川製作所 副所長 当社監査役 (現在) MMCスーパーアロイ(株) 取締役 同社常務取締役 同社常務取締役事務部長 (現在) 菱栄金属(株)取締役 (現在)		—
監 査 役		伊 藤 真 弘	昭和36年11月11日生	平成 6 年 8 月 平成 9 年 9 月 平成20年 6 月 平成23年 6 月	伊藤真弘税理士事務所所長 (現在) (有)はたやコーポレーション代表取締役 (現在) 当社補欠監査役 当社監査役 (現在)		—
計							167

- (注) 1 監査役須田佳孝及び伊藤真弘は、社外監査役であります。
2 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (千株)
大 竹 雅 司	昭和17年 8 月25日生	平成 7 年 6 月 平成12年 4 月 平成14年 6 月 平成16年 6 月 平成16年 6 月 平成23年 6 月	(株)東海銀行常務取締役 ミリオン信用保証(株)取締役社長 御幸ビルディング(株)取締役会長 カネソウ(株)監査役（現在） 当社監査役 当社補欠監査役（現在）	(注)	1

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

当社は、株主・投資家の皆様をはじめとする社会全体に対して経営の透明性を高めるため、公正な経営を実現することを目指しておりますので、業務執行への監視機能、部門間の牽制機能、リスクコントロール機能を適切に行うため、次に述べる体制を採用しております。

取締役および監査役が出席する取締役会を毎月1回開催し、法令で定められた事項のほか、重要事項はすべて付議され、業績の進捗についても議論し対策等を検討しております。

また、営業部門・生産部門・技術部門・品質管理部門・総務部門に分かれそれぞれ効率的な牽制を行うとともに、社長直轄の内部統制室が内部統制を評価して、監査役が業務監査と内部統制システムの監視を行っております。

リスク管理体制としては、危機管理委員会で全社的なリスク管理体制を適宜見直し、問題点の把握と改善に努め、取締役は「生産活動に直結する危機管理要領」に基づき管轄する部門のリスクコントロールを行っております。

反社会的勢力による経営活動への関与については、毅然とした態度で臨んでおり、ステークホルダーの皆様は一切ご迷惑をおかけしない対応を取ります。また、総務部を窓口として警察等の外部機関や関連団体との信頼関係の構築および情報交換等の連携を取り、引き続き反社会的勢力の排除を行います。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直轄の内部統制室を設置し、専任の内部監査人1名が内部統制規程等に従って財務報告に係る内部統制について、重要な事業拠点、業務プロセスを設定して、社長承認を得た内部監査の計画に従い、監査の実施、評価、監査結果を社長へ報告をする事によって、財務報告の信頼性、業務の有効性および効率性を検証しております。

監査役監査については、監査役監査基準、監査役会規則、内部統制システムに係る監査の実施基準等に従い、監査役会（監査役3名）において、監査方針、監査計画、業務分担を定め、取締役会等の重要会議への出席、重要な書類の閲覧、財産状況の調査、職務執行の監査を行い、取締役との定期会合等で監査結果の報告、意見交換をすることにより、相互認識と信頼関係を深めております。

監査部門の相互連携については、内部監査人と監査役および会計監査人とは、定期（年間4回）および必要の都度、情報・意見交換を行い、監査の実効性と効率性を図っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

須田佳孝は、現在、MMCスーパーアロイ株式会社の常務取締役事務部長であり、MMCスーパーアロイ株式会社は当社の主要株主であります。同社との取引は定常的なものであり、同氏個人が直接利害関係を有するものではありません。それ以外に当社との間に人的関係、資本的関係その他利害関係はありません。

伊藤真弘は、伊藤真弘税理士事務所所長および㈲はたやコーポレーションの代表取締役であり、当社との間に人的関係、資本的関係、取引関係その他利害関係はありません。

社外監査役の選任にあたり、独立性に関する基準又は方針は設けておりませんが、選任にあたっては、一般株主との利益相反が生じるおそれがなく、人格、識見とも優れ、また、他社の取締役又は経営者として豊富な経験を有するなど、会社業務の全般にわたって経営を監視する立場に適した人材を選任しております。

社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割としては、当社の経営に関する外部からの監視および、豊富な経験や知識をもとに中立的・独立的な立場で職務遂行を監視することであります。

社外監査役は取締役会のほか、代表取締役と監査役、会計監査人と監査役の会合へ出席し、また内部監査・内部統制部門との連携につきましては主に常勤監査役が各部門との情報交換を行い、その内容を監査役会に報告して協議を行っております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、上記のことから社外監査役による外部からの経営監視が十分機能する体制を整えております。

役員報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	128,070	90,600	—	25,500	11,970	7
監査役 (社外監査役を除く。)	11,480	9,600	—	1,000	880	1
社外監査役	5,700	4,800	—	500	400	2

ロ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定については、株主総会において決議することとしております。

基本報酬については、取締役は、報酬限度額を平成24年6月の定時株主総会の決議により月額10,000千円、監査役については、平成7年6月の定時株主総会の決議により月額1,800千円と定めており、その範囲内で、取締役については取締役会にて、監査役については監査役の協議によって決定しております。

退職慰労金については、役員退職慰労金規定に従い引当金繰入額および退職慰労金を計上しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式（非上場株式含む）

銘柄数 20銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,015,487千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
三菱UFJリース(株)	30,000	149,100	取引関係の維持強化のため長期保有
アイシン精機(株)	35,400	122,130	取引関係の維持強化のため長期保有
三菱マテリアル(株)	451,000	120,868	取引関係の維持強化のため長期保有
トヨタ自動車(株)	21,073	102,414	取引関係の維持強化のため長期保有
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	156,000	69,108	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	123,600	68,968	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)中京銀行	310,000	62,000	取引関係の維持強化のため長期保有
中央可鍛工業(株)	95,000	32,205	取引関係の維持強化のため長期保有
スズキ(株)	10,500	22,165	取引関係の維持強化のため長期保有
ダイハツ工業(株)	10,000	19,520	取引関係の維持強化のため長期保有
マツダ(株)	58,905	16,552	取引関係の維持強化のため長期保有
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	5,320	10,991	取引関係の維持強化のため長期保有
三菱電機(株)	5,000	3,785	取引関係の維持強化のため長期保有
川崎重工業(株)	10,000	2,950	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)ジェイテクト	1,100	981	取引関係の維持強化のため長期保有

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	114,600	556,956	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
三菱マテリアル(株)	494,000	132,392	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
中央発條(株)	275,000	89,650	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	111,470	62,200	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
三菱UFJリース(株)	300,000	151,800	取引関係の維持強化のため長期保有
三菱マテリアル(株)	451,000	132,143	取引関係の維持強化のため長期保有
アイシン精機(株)	35,400	131,865	取引関係の維持強化のため長期保有
トヨタ自動車(株)	21,073	122,771	取引関係の維持強化のため長期保有
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	156,000	72,696	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	103,600	58,741	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)中京銀行	310,000	56,110	取引関係の維持強化のため長期保有
中央可鍛工業(株)	95,000	31,825	取引関係の維持強化のため長期保有
スズキ(株)	10,500	28,287	取引関係の維持強化のため長期保有
マツダ(株)	58,905	26,978	取引関係の維持強化のため長期保有
ダイハツ工業(株)	10,000	18,230	取引関係の維持強化のため長期保有
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	5,320	12,576	取引関係の維持強化のため長期保有
三菱電機(株)	5,000	5,810	取引関係の維持強化のため長期保有
川崎重工業(株)	10,000	3,800	取引関係の維持強化のため長期保有
(株)ジェイテクト	1,100	1,687	取引関係の維持強化のため長期保有

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	114,600	667,659	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
三菱マテリアル(株)	494,000	144,742	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
中央発條(株)	275,000	82,775	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	111,470	63,203	退職給付信託契約に基づく議決権行使の指図権

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上額 の合計額	貸借対照表計上額 の合計額	受取配当金の 合計額	売却損益の 合計額	評価益の 合計額
非上場株式	—	—	—	—	—
上記以外の株式	23,382	30,821	384	—	21,068

会計監査の状況

当社は、監査法人コスモスとの間で、会社法監査と金融商品取引法監査について監査契約を締結し、年間監査計画に基づき監査を受け、四半期・期末監査終了後に会計監査人より経営者、監査役へ監査の方法、結果、内部統制などの報告を受けております。

当社の監査業務を執行した公認会計士は、太田修二、富田昌樹の2名であり、監査法人コスモスに所属し、いずれも継続監査年数は7年を超えておりません。また、当社の監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士6名となっております。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席した株主総会で選任する旨、及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

イ．自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ．中間配当

当社は、株主へ機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

ハ．剰余金の配当

当社は、会社法第459条第1項に基づき、剰余金の配当等を取締役会の決議により行う旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	15,000	—	16,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	15,000	—	16,000	—

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度および当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度および当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査計画の妥当性を検討の上、監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人コスモスにより監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,306,625	4,576,061
受取手形及び売掛金	⁴ 2,695,545	2,689,124
商品及び製品	757,853	769,309
仕掛品	435,390	487,580
原材料及び貯蔵品	888,100	975,936
繰延税金資産	25,183	14,097
その他	275,724	192,182
流動資産合計	10,384,424	9,704,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	² 1,588,564	² 1,589,993
機械装置及び運搬具（純額）	² 1,406,949	² 1,826,975
土地	² 730,560	² 735,125
リース資産（純額）	82,113	56,920
建設仮勘定	112,564	355,588
その他（純額）	59,236	86,785
有形固定資産合計	³ 3,979,988	³ 4,651,388
無形固定資産	14,600	16,441
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 984,696	1,046,671
前払年金費用	287,102	-
退職給付に係る資産	-	318,394
繰延税金資産	19,461	19,864
その他	163,548	185,421
貸倒引当金	9,550	9,550
投資その他の資産合計	1,445,259	1,560,801
固定資産合計	5,439,848	6,228,631
資産合計	15,824,273	15,932,924

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,616,611	2,654,559
1年内返済予定の長期借入金	² 838,118	² 533,708
リース債務	6,379	5,676
未払法人税等	270,667	175,173
賞与引当金	249,404	230,400
役員賞与引当金	27,000	31,000
製品保証引当金	14,600	15,600
契約損失引当金	155,673	-
未払消費税等	3,117	26,712
未払金	193,319	213,894
未払費用	403,132	409,571
設備関係支払手形	⁴ 71,651	212,863
その他	177,842	90,252
流動負債合計	5,027,518	4,599,410
固定負債		
長期借入金	² 1,088,407	² 554,699
リース債務	8,081	2,405
繰延税金負債	155,680	199,780
退職給付引当金	34,490	-
役員退職慰労引当金	59,334	74,092
退職給付に係る負債	-	37,565
資産除去債務	114,717	114,056
固定負債合計	1,460,711	982,598
負債合計	6,488,230	5,582,009
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,093,978	1,093,978
資本剰余金	757,360	757,360
利益剰余金	7,634,431	8,408,042
自己株式	86,069	26,536
株主資本合計	9,399,701	10,232,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	223,071	276,080
為替換算調整勘定	322,361	226,142
退職給付に係る調整累計額	-	2,138
その他の包括利益累計額合計	99,289	52,077
少数株主持分	35,631	65,992
純資産合計	9,336,042	10,350,914
負債純資産合計	15,824,273	15,932,924

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	14,712,952	15,372,675
売上原価	² 12,805,843	² 13,219,049
売上総利益	1,907,109	2,153,625
販売費及び一般管理費		
販売費	¹ 646,678	¹ 660,969
一般管理費	¹ 585,256	¹ 651,189
販売費及び一般管理費合計	1,231,934	1,312,158
営業利益	675,174	841,467
営業外収益		
受取利息	18,311	17,058
受取配当金	11,991	23,250
為替差益	289,548	211,170
保険配当金	2,918	2,972
助成金収入	2,140	870
保険解約返戻金	341	1,968
雑収入	10,738	15,896
営業外収益合計	335,990	273,187
営業外費用		
支払利息	31,888	20,936
障害者雇用納付金	2,400	2,200
雑損失	909	19
営業外費用合計	35,197	23,155
経常利益	975,967	1,091,499
特別利益		
固定資産売却益	³ 3,557	³ 1,214
投資有価証券売却益	-	5,773
契約損失引当金戻入額	-	13,089
特別利益合計	3,557	20,077
特別損失		
固定資産売却損	⁴ 880	⁴ 509
固定資産除却損	⁵ 6,226	⁵ 73
退職給付信託一部返還に伴う影響額	59,831	-
特別損失合計	66,938	583
税金等調整前当期純利益	912,585	1,110,992
法人税、住民税及び事業税	322,894	208,040
法人税等調整額	4,851	22,707
法人税等合計	327,745	230,748
少数株主損益調整前当期純利益	584,839	880,244
少数株主利益	15,920	27,368
当期純利益	568,919	852,876

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	584,839	880,244
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	77,031	53,009
為替換算調整勘定	56,959	102,567
その他の包括利益合計	¹ 133,991	¹ 155,576
包括利益	718,831	1,035,821
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	700,273	1,002,104
少数株主に係る包括利益	18,557	33,716

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,093,978	757,360	7,134,006	84,403	8,900,942
当期変動額					
剰余金の配当			68,327		68,327
当期純利益			568,919		568,919
自己株式の取得				2,175	2,175
自己株式の処分			167	509	342
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	500,424	1,665	498,759
当期末残高	1,093,978	757,360	7,634,431	86,069	9,399,701

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	146,039	376,683	—	230,643	17,073	8,687,372
当期変動額						
剰余金の配当						68,327
当期純利益						568,919
自己株式の取得						2,175
自己株式の処分						342
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	77,031	54,322	—	131,354	18,557	149,911
当期変動額合計	77,031	54,322	—	131,354	18,557	648,670
当期末残高	223,071	322,361	—	99,289	35,631	9,336,042

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,093,978	757,360	7,634,431	86,069	9,399,701
当期変動額					
剰余金の配当			68,871		68,871
当期純利益			852,876		852,876
自己株式の取得				2,316	2,316
自己株式の処分			10,393	61,848	51,455
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	773,611	59,532	833,143
当期末残高	1,093,978	757,360	8,408,042	26,536	10,232,844

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	223,071	322,361	—	99,289	35,631	9,336,042
当期変動額						
剰余金の配当						68,871
当期純利益						852,876
自己株式の取得						2,316
自己株式の処分						51,455
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	53,009	96,219	2,138	151,366	30,361	181,728
当期変動額合計	53,009	96,219	2,138	151,366	30,361	1,014,872
当期末残高	276,080	226,142	2,138	52,077	65,992	10,350,914

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)		
	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	912,585	1,110,992
減価償却費	516,326	614,663
賞与引当金の増減額（ は減少）	7,405	19,004
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	6,250	4,000
製品保証引当金の増減額（ は減少）	1,300	1,000
退職給付引当金の増減額（ は減少）	780	34,490
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	-	37,565
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	377	14,757
契約損失引当金の増減額（ は減少）	-	155,673
受取利息及び受取配当金	30,303	40,309
支払利息	31,888	20,936
為替差損益（ は益）	213,258	230,731
有形固定資産売却益	3,557	1,214
有形固定資産除売却損	7,107	583
投資有価証券売却損益（ は益）	-	5,773
退職給付信託一部返還に伴う影響額	59,831	-
売上債権の増減額（ は増加）	87,510	59,017
たな卸資産の増減額（ は増加）	9,476	72,314
仕入債務の増減額（ は減少）	71,457	4,502
未払消費税等の増減額（ は減少）	59,954	23,242
前払年金費用の増減額（ は増加）	56,811	287,102
退職給付に係る資産の増減額（ は増加）	-	315,077
その他の資産の増減額（ は増加）	14,359	95,158
その他の負債の増減額（ は減少）	138,398	103,874
小計	1,567,908	1,295,057
利息及び配当金の受取額	27,801	39,148
利息の支払額	32,871	21,509
法人税等の支払額	300,418	306,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,262,420	1,006,356

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	6,343,093	1,246,696
定期預金の払戻による収入	9,893,153	1,439,793
有形固定資産の取得による支出	1,124,620	1,059,991
有形固定資産の売却による収入	9,989	1,658
資産除去債務の履行による支出	-	1,792
無形固定資産の取得による支出	5,415	4,477
投資有価証券の売却による収入	-	26,968
貸付けによる支出	1,300	3,820
貸付金の回収による収入	9,558	7,231
その他の支出	10,981	10,509
その他の収入	1,152	3,683
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,428,443	847,952
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	842,348	838,308
自己株式の売却による収入	342	51,455
自己株式の取得による支出	2,175	2,316
リース債務の返済による支出	22,966	6,157
配当金の支払額	68,032	69,024
少数株主への配当金の支払額	-	3,355
財務活動によるキャッシュ・フロー	935,179	867,707
現金及び現金同等物に係る換算差額	184,376	171,836
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,940,061	537,466
現金及び現金同等物の期首残高	1,288,770	4,228,832
現金及び現金同等物の期末残高	4,228,832	3,691,365

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社の数は6社で全て連結の対象にしております。

当該子会社は、株式会社守山製作所、株式会社江南螺子製作所、株式会社美濃コーティング、OSR, INC.、OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT.LTD.、OYT CO.,LTD.であります。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社はありませんので持分法の適用はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、OSR, INC.、OWARI PRECISION PRODUCTS (INDIA) PVT. LTD.およびOYT CO.,LTD.の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性が低下した場合は正味売却価額まで簿価を切り下げる方法）

製品及び仕掛品

売価還元法による原価法

商品

最終仕入原価法

原材料

移動平均法による原価法

貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社および国内連結子会社については定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）

また、在外連結子会社については定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 13年～31年

機械装置及び運搬具 4年～10年

無形固定資産

定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

製品保証引当金

今後必要と見込まれる保証費用の支払に備えるため、売上高に対する保証費用の発生率に基づいて算定した金額を繰り入れております。

役員退職慰労引当金

役員の退職金支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額の100%相当額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金に係る金利変動

ヘッジ方針

リスク管理方針に基づき、借入金に係る金利変動をリスクヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

当社の採用しているヘッジ会計の方法は、金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債および退職給付に係る資産として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る資産に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る資産が318,394千円、退職給付に係る負債が37,565千円計上されております。また、その他の包括利益累計額が2,138千円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「有形固定資産」の「その他(純額)」に含めていた「建設仮勘定」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「有形固定資産」の「その他(純額)」に表示していた171,800千円は、「建設仮勘定」112,564千円、「その他(純額)」59,236千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券	9,600千円	一千円

2 担保に供している資産

工場財団

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	489,081千円	595,580千円
機械装置及び運搬具	787,963千円	1,052,660千円
土地	161,705千円	161,705千円
合計	1,438,750千円	1,809,947千円

上記に対する債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	554,800千円	311,800千円
長期借入金	587,700千円	275,900千円

3 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	17,949,468千円	18,222,795千円

4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	13,726千円	一千円
設備購入支払手形	19,109千円	一千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

(1) 販売費

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
給与・賞与手当	218,027千円	219,316千円
賞与引当金繰入額	31,270千円	30,200千円
退職給付費用	17,501千円	15,282千円
荷造運賃	232,449千円	246,248千円

(2) 一般管理費

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
役員報酬	106,942千円	127,919千円
給与・賞与手当	173,962千円	208,081千円
賞与引当金繰入額	16,061千円	15,590千円
役員賞与引当金繰入額	27,000千円	31,000千円
役員退職慰労引当金繰入額	11,933千円	14,757千円
退職給付費用	6,434千円	4,875千円

2 当期製造費用に含まれている研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	3,852千円	3,522千円

3 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	3,557千円	1,214千円
その他	0千円	―千円

4 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	127千円	43千円
機械装置及び運搬具	715千円	458千円
その他	37千円	7千円

5 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	―千円	1千円
機械装置及び運搬具	6,210千円	0千円
その他	16千円	72千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	118,674千円	80,702千円
組替調整額	—	2,466千円
税効果調整前	118,674千円	83,168千円
税効果額	41,642千円	30,158千円
その他有価証券評価差額金	77,031千円	53,009千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	56,959千円	102,567千円
組替調整額	—	—
税効果調整前	56,959千円	102,567千円
税効果額	—	—
為替換算調整勘定	56,959千円	102,567千円
その他の包括利益合計	133,991千円	155,576千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	11,659,500	—	—	11,659,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	269,742	9,980	1,635	278,087

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 9,980株

減少数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の売却による減少 1,635株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 5 月25日 取締役会	普通株式	34,169	3.0	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月29日
平成24年11月 2 日 取締役会	普通株式	34,158	3.0	平成24年 9 月30日	平成24年12月 3 日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 5 月24日 取締役会	普通株式	利益剰余金	34,144	3.0	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月24日

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	11,659,500	—	—	11,659,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	278,087	8,700	200,230	86,557

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 8,700株

減少数の内訳は、次の通りであります。

第三者割当による自己株式の処分による減少 200,000株

単元未満株式の売却による減少 230株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月24日 取締役会	普通株式	34,144	3.0	平成25年3月31日	平成25年6月24日
平成25年10月25日 取締役会	普通株式	34,727	3.0	平成25年9月30日	平成25年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月30日 取締役会	普通株式	利益剰余金	34,718	3.0	平成26年3月31日	平成26年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
(前連結会計年度)

	期末残高 (千円)	左記の内現金 及び現金同等 物(千円)
現金及び預金残高	5,306,625	4,228,832
現金及び現金同等物 期末残高		4,228,832

(注) 現金及び預金残高の期末残高と現金及び現金同等物の差額は、預金期間が3か月を超える定期預金によるものであります。

(当連結会計年度)

	期末残高 (千円)	左記の内現金 及び現金同等 物(千円)
現金及び預金残高	4,576,061	3,691,365
現金及び現金同等物 期末残高		3,691,365

(注) 現金及び預金残高の期末残高と現金及び現金同等物の差額は、預金期間が3か月を超える定期預金によるものであります。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

提出会社で使用するNC旋盤（機械及び装置）であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	合計
取得価額相当額	108,000千円	108,000千円
減価償却累計額相当額	107,250千円	107,250千円
期末残高相当額	750千円	750千円

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	合計
取得価額相当額	108,000千円	108,000千円
減価償却累計額相当額	108,000千円	108,000千円
期末残高相当額	—千円	—千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	765千円	—千円
1年超	—千円	—千円
合計	765千円	—千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
支払リース料	14,099千円	766千円
減価償却費相当額	13,789千円	750千円
支払利息相当額	46千円	0千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損会計について)

リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金に係る顧客のリスクは、契約事項管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

また、投資有価証券は主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。

借入金の使途は運転資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

借入金に係る金利変動をリスクヘッジするために金利スワップをヘッジ手段として利用しております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用度の高い国内の銀行を取引相手として行っており、信用リスクはないと判断しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

デリバティブ取引については、長期借入金は取締役会決議事項になっており、それに伴うデリバティブ取引の締結等は取締役会により決議され、取引の実行及び管理は総務部が行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注1)を参照ください。)

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,306,625	5,306,625	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,695,545	2,695,545	—
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	827,121	827,121	—
資産計	8,829,292	8,829,292	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,616,611	2,616,611	—
(2) 長期借入金	1,926,525	1,930,604	4,079
1年内返済予定の長期借入金	838,118		
長期借入金	1,088,407		
負債計	4,543,136	4,547,215	4,079
デリバティブ取引	—	—	—

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,576,061	4,576,061	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,689,124	2,689,124	—
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	886,142	886,142	—
資産計	8,151,328	8,151,328	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,654,559	2,654,559	—
(2) 長期借入金	1,088,407	1,090,351	1,944
1年内返済予定の長期借入金	533,708		
長期借入金	554,699		
負債計	3,742,966	3,744,910	1,944
デリバティブ取引	—	—	—

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、（下記参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております（上記(2)参照）。

(注1)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	157,575	160,529

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注2)満期のある金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	5,306,625	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,695,545	—	—	—
合計	8,002,170	—	—	—

当連結会計年度（平成26年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	4,576,061	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,689,124	—	—	—
合計	7,265,186	—	—	—

(注3)長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内
長期借入金	838,118	533,708	444,708	109,991
リース債務	6,379	5,676	2,387	17
合計	844,497	539,384	447,095	110,008

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
長期借入金	533,708	444,708	109,991
リース債務	5,676	2,387	17
合計	539,384	447,095	110,008

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)			
区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	644,253	264,693	379,560
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	644,253	264,693	379,560
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	182,868	195,524	12,656
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	182,868	195,524	12,656
合計	827,121	460,217	366,903

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)			
区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	830,032	374,827	455,204
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	830,032	374,827	455,204
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	56,110	74,656	18,546
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	56,110	74,656	18,546
合計	886,142	449,483	436,658

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)			
区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	26,968	5,773	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
合計	26,968	5,773	—

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	782,500	339,700	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	339,700	139,900	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

確定給付企業年金：退職金制度の一部について確定給付企業年金制度を採用しております。

退職一時金：退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、当社は原則法を採用し、連結子会社は簡便法を採用しております。

2 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務	1,473,088 千円
(2) 年金資産	568,659
(3) 退職給付信託資産	1,014,340
(4) 未積立退職給付債務	109,911
((1)+(2)+(3))	
(5) 未認識数理計算上の差異	142,700
(6) 連結貸借対照表計上額純額	252,611
((4)+(5))	
(7) 前払年金費用	287,102
(8) 退職給付引当金	34,490

3 退職給付費用に関する事項

退職給付費用	118,627
(1) 勤務費用	112,137
(2) 利息費用	11,927
(3) 期待運用収益	10,444
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	5,006

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	0.64 %
(3) 期待運用収益率	2.00 %
(4) 数理計算上の差異の処理年数	

10年（各連結会計年度発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により按分した額を、それぞれ発生した連結会計年度から費用処理することとしております。）

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

確定給付企業年金：退職金制度の一部について確定給付企業年金制度を採用しております。

退職一時金：退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

また、当社は退職給付信託を設定しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、当社は原則法を採用し、連結子会社は簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	1,434,528千円
勤務費用	110,829
利息費用	8,721
数理計算上の差異の発生額	18,155
退職給付の支払額	157,535
退職給付債務の期末残高	1,378,387

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	1,578,930千円
期待運用収益	11,291
数理計算上の差異の発生額	141,965
事業主からの拠出額	33,308
退職給付の支払額	68,713
年金資産の期末残高	1,696,782

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	1,378,387千円
年金資産	1,696,782
	318,394
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	318,394
退職給付に係る資産	318,394千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	318,394

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	110,829千円
利息費用	8,721
期待運用収益	11,291
数理計算上の差異の費用処理額	14,104
確定給付制度に係る退職給付費用	94,155

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	3,316千円
合計	3,316

(6) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	78%
株式	10%
その他	12%
合計	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が64%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表している。)

割引率	0.76%
長期期待運用収益率	2.00%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	34,490千円
退職給付費用	4,064
退職給付の支払額	—
制度への拠出額	990
退職給付に係る負債の期末残高	37,565

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	42,427千円
年金資産	4,862
	37,565
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	37,565

退職給付に係る負債	37,565千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	37,565

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	4,064千円
----------------	---------

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産評価損	50,754千円	55,608千円
固定資産除却損	14,354千円	11,825千円
少額固定資産	14,170千円	13,768千円
子会社欠損金	122,840千円	124,446千円
未払事業税	20,363千円	10,015千円
賞与引当金	108,461千円	94,207千円
退職給付引当金	12,247千円	—
退職給付に係る負債	—	13,339千円
役員退職慰労引当金	21,069千円	26,310千円
未払事業税	—	1,761千円
製品保証引当金	5,530千円	5,539千円
契約損失引当金	58,968千円	—
減損損失	29,799千円	25,148千円
資産除去債務	40,736千円	40,501千円
その他	22,012千円	17,104千円
繰延税金資産小計	521,309千円	439,576千円
評価性引当額	431,197千円	373,291千円
繰延税金資産合計	90,111千円	66,285千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券 評価差額金	121,369千円	151,527千円
固定資産圧縮積立金	10,586千円	9,735千円
前払年金費用	58,832千円	—
退職給付に係る資産	—	60,583千円
退職給付に係る調整累計額	—	1,177千円
資産除去債務に係る建物	1,329千円	1,222千円
その他	9,031千円	7,857千円
繰延税金負債合計	201,147千円	232,103千円
繰延税金負債の純額	111,035千円	165,818千円
繰延税金資産の純額が含まれる連結貸借対照表の項目		
流動資産—繰延税金資産	25,183千円	14,097千円
固定資産—繰延税金資産	19,461千円	19,864千円
固定負債—繰延税金負債	155,680千円	199,780千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担額との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率 (調整)	37.88%	37.88%
住民税均等割	0.69	0.57
評価性引当額の増減	2.25	5.63
海外子会社の税率差異	0.08	10.14
受取配当等永久に益金 に算入されない項目	0.74	0.81
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.33	0.26
実効税率変更による影響	—	0.06
その他	0.08	1.42
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	35.91	20.77

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の37.88%から35.51%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が721千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が721千円増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

社有建物の解体時におけるアスベスト除去費用等につき資産除去債務を計上しております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年～34年と見積もり、割引率は2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	113,574千円	114,717千円
時の経過による調整額	1,143千円	1,131千円
資産除去債務履行による減少額	—千円	1,792千円
期末残高	114,717千円	114,056千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に自動車部品等を生産・販売しており、日本には親会社である尾張精機株式会社(当社)を始め、国内子会社には株式会社守山製作所、株式会社江南螺子製作所、株式会社美濃コーティング、海外子会社にはアメリカにOSR, INC.、インドにOWARI PRECISION PRODUCTS(INDIA)PVT.LTD.、タイにOYT CO., LTD.があり、計7社で構成しております。

現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品について各国の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって当社グループは、生産・販売を基礎とした国別セグメントから構成されており、「日本」、「アメリカ」、「インド」及び「タイ」の4つを報告セグメントとしております。

「日本」では、精密鍛造品、ねじ類、航空機部品を生産、「アメリカ」は、ねじ類を生産、「インド」及び「タイ」は、精密鍛造品を生産しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	日本	アメリカ	インド	タイ	計			
売上高								
外部顧客への売上高	12,265,906	685,420	230,893	1,530,732	14,712,952	14,712,952	—	14,712,952
セグメント間の内部 売上高又は振替高	605,848	—	—	—	605,848	605,848	605,848	—
計	12,871,754	685,420	230,893	1,530,732	15,318,800	15,318,800	605,848	14,712,952
セグメント利益	803,969	5,882	8,798	161,424	980,076	980,076	4,109	975,967
セグメント資産	15,064,402	582,140	566,810	854,351	17,067,705	17,067,705	1,243,432	15,824,273
セグメント負債	6,049,300	465,462	186,975	553,507	7,255,246	7,255,246	767,016	6,488,230
その他の項目								
減価償却費	392,363	25,875	44,969	53,117	516,326	516,326	—	516,326
受取利息	16,990	79	7,701	1,657	26,429	26,429	8,117	18,311
支払利息	30,956	3,166	128	5,754	40,006	40,006	8,117	31,888
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,030,032	71,172	125,587	102,862	1,329,654	1,329,654	—	1,329,654

(注) 1 セグメント利益、セグメント資産、セグメント負債およびその他の項目の調整額には、セグメント間取引消去額を表示しております。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	日本	アメリカ	インド	タイ	計			
売上高								
外部顧客への売上高	12,120,144	948,298	437,508	1,866,723	15,372,675	15,372,675	—	15,372,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	513,462	—	20,392	—	533,855	533,855	533,855	—
計	12,633,607	948,298	457,900	1,866,723	15,906,530	15,906,530	533,855	15,372,675
セグメント利益又は損失()	730,804	4,304	118,700	276,987	1,122,187	1,122,187	30,688	1,091,499
セグメント資産	14,713,437	686,339	892,810	1,188,361	17,480,949	17,480,949	1,548,024	15,932,924
セグメント負債	5,114,258	548,660	394,425	597,901	6,655,246	6,655,246	1,073,236	5,582,009
その他の項目								
減価償却費	464,170	29,930	47,178	73,383	614,663	614,663	—	614,663
受取利息	14,553	131	6,996	3,776	25,457	25,457	8,398	17,058
支払利息	19,346	5,839	1,710	2,438	29,334	29,334	8,398	20,936
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	854,717	96,020	38,962	235,044	1,224,745	1,224,745	—	1,224,745

(注) 1 セグメント利益、セグメント資産、セグメント負債およびその他の項目の調整額には、セグメント間取引
消去額を表示しております。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

(単位：千円)

	精密鍛造品	ねじ類	航空機部品	合計
外部顧客への売上高	7,955,662	6,497,937	259,352	14,712,952

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位：千円)

	精密鍛造品	ねじ類	航空機部品	合計
外部顧客への売上高	7,941,014	7,088,912	342,748	15,372,675

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位：千円)

日本	アメリカ	インド	タイ	合計
3,815,020	163,873	290,064	382,429	4,651,388

3 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
アイシン・エーアイ株式会社	3,035,843	日本
トヨタ自動車株式会社	2,279,226	日本
マツダ株式会社	1,664,139	日本

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
アイシン・エーアイ株式会社	2,533,920	日本
トヨタ自動車株式会社	2,186,930	日本
マツダ株式会社	1,924,582	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る）等

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円)
法人主要株主	トヨタ自動車(株)	愛知県豊田市	397,049	自動車および同部品等の製造販売	(被所有)直接10.4	当社製品の販売	当社製品の販売(注1)	2,279,226	売掛金	263,595

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 価格については、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円)
法人主要株主	トヨタ自動車(株)	愛知県豊田市	397,049	自動車および同部品等の製造販売	(被所有)直接10.2	当社製品の販売	当社製品の販売(注1)	2,186,930	売掛金	255,130

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 価格については、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）等

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額並びに 1 株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3 月31日)
(1) 1 株当たり純資産額 (円)	817.16	888.70

項目	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
(2) 1 株当たり当期純利益金額 (円)	49.97	74.06
(算定上の基礎)		
当期純利益 (千円)	568,919	852,876
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	568,919	852,876
普通株式の期中平均株式数 (千株)	11,385	11,515

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過
的な取扱いに従っております。
この結果、当連結会計年度の 1 株当たり純資産額が、0.18円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	838,118	533,708	1.21	—
1年以内に返済予定のリース債務	6,379	5,676	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	1,088,407	554,699	1.07	平成28年4月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	8,081	2,405	—	平成27年4月～ 平成28年7月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	1,940,986	1,096,488	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	444,708	109,991	—	—
リース債務	2,387	17	—	—

(注) 「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	3,762,290	7,555,282	11,299,872	15,372,675
税金等調整前 四半期(当期)純 (千円) 利益	339,902	569,120	893,667	1,110,992
四半期(当期)純 (千円) 利益	188,354	501,269	743,716	852,876
1株当たり四半期 (当期)純利益金 (円) 額	16.55	43.72	64.68	74.06

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	16.55	27.14	20.95	9.43

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,854,285	2,847,125
受取手形	³ 191,108	99,128
売掛金	² 2,613,497	² 2,566,859
商品及び製品	521,184	503,754
仕掛品	391,232	418,747
原材料及び貯蔵品	560,416	573,757
前払費用	10,879	12,194
繰延税金資産	12,148	-
立替金	² 1,226	² 1,778
未収入金	² 164,158	² 178,506
関係会社短期貸付金	92,845	58,252
その他	15,081	11,331
流動資産合計	8,428,065	7,271,436
固定資産		
有形固定資産		
建物	¹ 1,513,447	¹ 1,505,172
構築物	31,840	27,373
機械及び装置	¹ 787,963	¹ 1,052,660
車両運搬具	1,928	6,399
工具、器具及び備品	31,082	38,361
土地	¹ 549,462	¹ 549,462
リース資産	75,359	53,157
建設仮勘定	98,968	250,178
有形固定資産合計	3,090,052	3,482,766
無形固定資産		
ソフトウェア	6,163	8,080
特許実施権	5,000	5,000
その他	2,194	2,184
無形固定資産合計	13,358	15,265
投資その他の資産		
投資有価証券	982,335	1,046,308
関係会社株式	780,987	780,987
出資金	525	525
従業員に対する長期貸付金	7,213	5,504
関係会社長期貸付金	174,707	441,603
長期前払費用	13,810	16,214
前払年金費用	287,102	315,077
その他	114,999	123,874
貸倒引当金	9,550	9,550
投資その他の資産合計	2,352,130	2,720,546
固定資産合計	5,455,542	6,218,577
資産合計	13,883,607	13,490,014

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 3 月31日)	当事業年度 (平成26年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	136,727	137,660
買掛金	² 2,409,657	² 2,482,964
1年内返済予定の長期借入金	¹ 836,708	¹ 533,708
リース債務	217	-
未払金	182,464	213,277
未払費用	² 377,431	² 353,260
未払法人税等	243,917	111,195
未払消費税等	-	17,930
預り金	41,290	32,484
賞与引当金	229,000	208,000
役員賞与引当金	27,000	31,000
製品保証引当金	14,600	15,600
契約損失引当金	155,673	-
設備関係支払手形	³ 70,831	207,303
流動負債合計	4,725,518	4,344,385
固定負債		
長期借入金	¹ 1,088,407	¹ 554,699
繰延税金負債	146,649	190,744
役員退職慰労引当金	57,090	70,341
資産除去債務	94,834	95,966
固定負債合計	1,386,981	911,751
負債合計	6,112,500	5,256,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,093,978	1,093,978
資本剰余金		
資本準備金	757,360	757,360
資本剰余金合計	757,360	757,360
利益剰余金		
利益準備金	209,279	209,279
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	18,953	17,679
別途積立金	3,828,000	3,828,000
繰越利益剰余金	1,726,531	2,078,035
利益剰余金合計	5,782,765	6,132,994
自己株式	86,069	26,536
株主資本合計	7,548,035	7,957,796
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	223,071	276,080
評価・換算差額等合計	223,071	276,080
純資産合計	7,771,107	8,233,877
負債純資産合計	13,883,607	13,490,014

【損益計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	2 12,617,675	2 12,399,989
売上原価	2 11,209,125	2 11,070,493
売上総利益	1,408,549	1,329,495
販売費及び一般管理費	1 1,024,230	1 1,048,107
営業利益	384,319	281,388
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	2 35,159	2 88,802
為替差益	271,750	193,403
その他	36,433	40,516
営業外収益合計	343,343	322,722
営業外費用		
支払利息	30,956	18,939
その他	3,307	2,219
営業外費用合計	34,263	21,158
経常利益	693,399	582,952
特別利益		
固定資産売却益	495	1,184
投資有価証券売却益	-	5,133
契約損失引当金戻入額	-	13,089
特別利益合計	495	19,407
特別損失		
固定資産売却損	880	7
固定資産除却損	1,182	73
退職給付信託一部返還に伴う影響額	59,831	-
特別損失合計	61,894	81
税引前当期純利益	631,999	602,278
法人税、住民税及び事業税	286,929	146,700
法人税等調整額	7,152	26,085
法人税等合計	279,777	172,785
当期純利益	352,222	429,493

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,093,978	757,360	209,279	18,924	3,828,000	1,442,833	5,499,038
当期変動額							
剰余金の配当						68,327	68,327
当期純利益						352,222	352,222
税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金 の変動額				1,452		1,452	—
固定資産圧縮積立金 の取崩				1,423		1,423	—
自己株式の取得							
自己株式の処分						167	167
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	—	—	—	29	—	283,698	283,727
当期末残高	1,093,978	757,360	209,279	18,953	3,828,000	1,726,531	5,782,765

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	84,403	7,265,973	146,039	146,039	7,412,013
当期変動額					
剰余金の配当		68,327			68,327
当期純利益		352,222			352,222
税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金 の変動額		—			—
固定資産圧縮積立金 の取崩		—			—
自己株式の取得	2,175	2,175			2,175
自己株式の処分	509	342			342
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			77,031	77,031	77,031
当期変動額合計	1,665	282,062	77,031	77,031	359,093
当期末残高	86,069	7,548,035	223,071	223,071	7,771,107

当事業年度(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,093,978	757,360	209,279	18,953	3,828,000	1,726,531	5,782,765
当期変動額							
剰余金の配当						68,871	68,871
当期純利益						429,493	429,493
税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金 の変動額				46		46	—
固定資産圧縮積立金 の取崩				1,321		1,321	—
自己株式の取得							
自己株式の処分						10,393	10,393
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	—	—	—	1,274	—	351,503	350,228
当期末残高	1,093,978	757,360	209,279	17,679	3,828,000	2,078,035	6,132,994

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	86,069	7,548,035	223,071	223,071	7,771,107
当期変動額					
剰余金の配当		68,871			68,871
当期純利益		429,493			429,493
税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金 の変動額		—			—
固定資産圧縮積立金 の取崩		—			—
自己株式の取得	2,316	2,316			2,316
自己株式の処分	61,848	51,455			51,455
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			53,009	53,009	53,009
当期変動額合計	59,532	409,760	53,009	53,009	462,770
当期末残高	26,536	7,957,796	276,080	276,080	8,233,877

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性が低下した場合は正味売却価額まで簿価を切り下げる方法）

(1) 製品及び仕掛品

売価還元法による原価法

(2) 商品

最終仕入原価法

(3) 原材料

移動平均法による原価法

(4) 貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	13年～31年
----	---------

機械及び装置	9年～10年
--------	--------

(2) 無形固定資産

定額法

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア	5年
--------	----

特許実施権	5年
-------	----

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 製品保証引当金

今後必要と見込まれる保証費用の支払に備えるため、売上高に対する保証費用の発生率に基づいて算定した金額を繰り入れております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）により按分した額を、それぞれ発生した事業年度から費用処理することとしております。

(6) 役員退職慰労引当金

役員の退職金支給に備えるため、内規に基づく事業年度末要支給額の100%相当額を計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、特例処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金に係る金利変動

(3) ヘッジ方針

リスク管理方針に基づき、借入金に係る金利変動をリスクヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

当社の採用しているヘッジ会計の方法は、金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の処理方法

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第75条第2項に定める製造原価明細書については、同ただし書きにより、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

工場財団

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	489,081千円	595,580千円
機械及び装置	787,963千円	1,052,660千円
土地	161,705千円	161,705千円
合計	1,438,750千円	1,809,947千円

上記に対する債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	554,800千円	311,800千円
長期借入金	587,700千円	275,900千円

2 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	545,908千円	542,750千円
短期金銭債務	490,410千円	525,533千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	12,828千円	—千円
設備購入支払手形	19,109千円	—千円

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

(1) 販売費

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
給与・賞与手当	217,879千円	218,982千円
賞与引当金繰入額	31,270千円	30,200千円
退職給付費用	17,501千円	15,282千円
荷造運賃	216,046千円	221,361千円
減価償却費	10,556千円	11,962千円

(2) 一般管理費

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
役員報酬	88,500千円	105,000千円
給与・賞与手当	101,984千円	91,530千円
賞与引当金繰入額	13,220千円	13,000千円
役員賞与引当金繰入額	26,350千円	31,000千円
役員退職慰労引当金繰入額	10,742千円	13,250千円
退職給付費用	5,192千円	4,232千円
減価償却費	25,458千円	26,503千円

2 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引(収入分)	606,027千円	513,596千円
営業取引(支出分)	1,409,755千円	1,490,078千円
営業取引以外の取引(収入分)	39,529千円	85,108千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	780,987
(2) 関連会社株式	—
計	780,987

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	780,987
(2) 関連会社株式	—
計	780,987

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年 3 月31日)	当事業年度 (平成26年 3 月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産評価損	50,754千円	55,608千円
固定資産除却損	4,135千円	3,259千円
少額固定資産	14,068千円	13,737千円
関係会社株式評価損	299,982千円	299,982千円
未払事業税	19,334千円	8,953千円
未払退職金	—	1,761千円
賞与引当金	99,562千円	85,075千円
役員退職慰労引当金	20,272千円	24,978千円
減損損失	16,549千円	14,090千円
製品保証引当金	5,530千円	5,539千円
貸倒引当金	3,391千円	3,391千円
契約損失引当金	58,968千円	—
資産除去債務	33,675千円	34,077千円
その他	15,111千円	10,047千円
繰延税金資産小計	641,338千円	560,502千円
評価性引当額	583,723千円	528,179千円
繰延税金資産合計	57,615千円	32,323千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券 評価差額金	121,369千円	151,527千円
固定資産圧縮積立金	10,586千円	9,735千円
前払年金費用	58,832千円	60,583千円
資産除去債務に係る建物	1,329千円	1,222千円
繰延税金負債合計	192,116千円	223,067千円
繰延税金資産（負債）の純額	134,501千円	190,744千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担額との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年 3 月31日)	当事業年度 (平成26年 3 月31日)
法定実効税率	37.88%	37.88%
(調整)		
住民税均等割	0.94%	0.99%
評価性引当額の増減	6.16%	6.69%
受取配当等永久に益金 に算入されない項目	1.07%	4.69%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.46%	0.47%
その他	0.10%	0.73%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	44.27%	28.69%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の37.88%から35.51%に変更されております。この税率変更による影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,513,447	111,614	1	119,887	1,505,172	3,286,191
	構築物	31,840	—	—	4,466	27,373	278,350
	機械及び装置	787,963	501,496	2,552	234,246	1,052,660	11,332,689
	車両運搬具	1,928	8,194	10	3,711	6,399	26,600
	工具、器具及び備品	31,082	39,133	7,949	23,904	38,361	465,164
	土地	549,462	—	—	—	549,462	—
	リース資産	75,359	—	—	22,202	53,157	68,538
	建設仮勘定	98,968	642,308	491,098	—	250,178	—
	計	3,090,052	1,302,745	501,612	408,420	3,482,766	15,457,535
無形固定資産	ソフトウェア	6,163	4,378	—	2,462	8,080	7,820
	特許実施権	5,000	—	—	—	5,000	—
	その他	2,194	—	—	10	2,184	727
	計	13,358	4,378	—	2,472	15,265	8,548

(注) 当期増減額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	旭工場	空調熱源設備	1 式	78,351 千円
機械及び装置	本社工場	ロングパーツフォーマー	1 台	177,000 千円
	美濃工場	連続熱処理装置	2 台	274,000 千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金（固定）	9,550	—	—	9,550
賞与引当金	229,000	208,000	229,000	208,000
役員賞与引当金	27,000	31,000	27,000	31,000
契約損失引当金	155,673	—	155,673	—
製品保証引当金	14,600	15,600	14,600	15,600
役員退職慰労引当金	57,090	13,250	—	70,341

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 — 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
取扱場所	
株主名簿管理人	
取次所	
買取手数料	
公告掲載方法	電子公告 ホームページアドレス http://www.owariseiki.co.jp (但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、中日新聞に掲載いたします。)
株主に対する特典	なし

- (注) 当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について定款の定めにより、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利。
 - (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利。
 - (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利。
 - (4) 当社の株式取扱規程に定めるところにより、その有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第170期)	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	平成25年 6 月21日 東海財務局長に提出
(2)	内部統制報告書 及びその添付書類	事業年度 (第170期)	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	平成25年 6 月21日 東海財務局長に提出
(3)	臨時報告書	金融商品取引法第24条の 5 第 4 項及び 企業内容等の開示に関する内閣府令第 19条第 2 項第 9 号の 2 (株主総会におけ る決議事項の決議)の規定に基づくもの		平成25年 6 月26日 東海財務局長に提出
(4)	四半期報告書 及び確認書	第171期 第1四半期	自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日	平成25年 8 月 8 日 東海財務局長に提出
(5)	四半期報告書の訂正報告書 及び確認書	第171期 第1四半期	自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日	平成25年11月11日 東海財務局長に提出
(6)	四半期報告書 及び確認書	第171期 第2四半期	自 平成25年 7 月 1 日 至 平成25年 9 月30日	平成25年11月11日 東海財務局長に提出
(7)	四半期報告書 及び確認書	第171期 第3四半期	自 平成25年10月 1 日 至 平成25年12月31日	平成26年 2 月 7 日 東海財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年 6 月24日

尾張精機株式会社

取締役会 御 中

監査法人 コスモス

代表社員 業務執行社員	公認会計士	太	田	修	二
----------------	-------	---	---	---	---

代表社員 業務執行社員	公認会計士	富	田	昌	樹
----------------	-------	---	---	---	---

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている尾張精機株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、尾張精機株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、尾張精機株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、尾張精機株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6 月24日

尾張精機株式会社

取締役会 御中

監査法人 コスモス

代表社員 業務執行社員	公認会計士	太	田	修	二
----------------	-------	---	---	---	---

代表社員 業務執行社員	公認会計士	富	田	昌	樹
----------------	-------	---	---	---	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている尾張精機株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第171期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、尾張精機株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。